

僕らの税

横手市立十文字中学校 藤澤 文哉

僕の祖父は日本酒が大好きで、よく飲んでいました。そんなお酒にも税金がかかるという事を僕は六年生の社会で習いました。その時に「なぜ人の好きな物や趣味の物に限って税金が発生するんだろう」と疑問をもちました。お酒やタバコはどちらかというと体に悪いので、国民の健康を守るために税金をつけるのはまだ分かりますが、他にも温泉に入る際に発生する「入湯税」や、ゴルフ場を使う際に発生する「ゴルフ場利用税」だったり、いまいち目的が分からない税金もありました。このような税金がある理由って何だろうと考えてしまいました。今回はこの中で一番気になった酒税について深掘りしていきます。酒税とはその名の通り酒類にかかる税金のことです。製造者、輸入者、そして消費者が払います。この酒税について僕が知った時、まず最初に「なぜ酒税があるのか」という疑問が生まれました。調べてみると「たしかになあ」と思える理由がそこにはありました。それは「国内での酒類の消費を調節するため」という理由があるからだそうです。他にも健康問題や飲酒マナーなどの社会問題への配慮も見受けられます。たばこもそうですがお酒には、依存症や、それにとまなう病気なども関わっているのです。この理由にはとても納得しました。またお酒を飲むことで飲酒運転の問題も近年は増えています。もしかしたら税金はそんな人にストップをかけてくれるのかもしれませんが。とはいえお酒も悪い事ばかりではなく、良い所もあります。適量の飲酒であれば精神的ストレスの発散を見込めます。しっかり良し悪しを理解し、お酒との適切な関係や付き合い方をするのが重要だと思います。話が少し横道にそれてしまいました。が、次に酒税の使われ方について考えたいと思います。何か他の税の使われ方と違う所だったり、特定の使われ方があるのでしょうか。答えは特定の物ではなく、他のほとんどの税の使われ方と同じです。使われる比率として大きいのは、社会保障関係費や各自治体の予算です。これで分かったと思いますが、酒税は国の税収として扱われます。その税収による社会保障のおかげで家や会社で出したゴミの回収が行われているし、警察や消防が活動できたりと、とにかくこの日本にとっての重要な仕組みを担っています。その費用には僕達が払った税金が使われています。それを知ると少し嬉しくなりません。僕の祖父のように、ただお酒が飲みたくて飲んでいる人でも酒税は絶対に払っています。これで分かったのが人は生活をしているだけで間接的に多くの人の生活を支えていることです。この循環を多くの人に知ってもらうことで、多くの人の税への見方が変わり、社会貢献をしている気持ちで税金を払うことができると思います。ぜひ、私達も税金を納める目的を理解して、日本を支えていきたいと思っています。